

会議情報

第20回北太平洋溯河性魚類委員会(NPAFC)年次会議

うらわ しげひこ

浦和 茂彦 (北海道区水産研究所 さけます資源部)

さけます類は、北太平洋を広く回遊し様々な地域個体群が混合して海洋生活する特性を持つことから、国際協力による海洋調査や資源管理が不可欠です。北太平洋溯河性魚類委員会 (NPAFC, <http://www.npafc.org/>) は 1993 年に発効した「北太平洋における溯河性魚類の系群の保存のための条約」により設立され、カナダ、日本、韓国、ロシアと米国の 5 カ国が加盟しています。条約対象魚種は、ベニザケ、カラフトマス、サケ、ギンザケ、マスノスケ、サクラマスとスチールヘッドの太平洋さけます類 (サケ属) 7 種です。条約水域内 (北緯 33 度以北の太平洋と接続する水域の公海) でのさけます漁業は全面禁止されており、これにより我が国のサケを含む各国起源の資源が保全されています。科学調査統計 (CSRS)、取締 (ENFO) と財政運営 (F&A) の各小委員会があり、CSRS では科学分科会と資源評価、耳石標識、系群識別、ベーリング海さけ・ます調査 (BASIS)、タグ標識の各作業グループが活動しています。2012 年 10 月 7 日より第 20 回 NPAFC 年次会議が Санкт-Петербург (ロシア) で開催され、日本からは岡本・長谷両政府代表をはじめとする 10 名が参加しました。ここでは CSRS の概要を紹介します。

さけます漁獲量と放流数

2011 年加盟国の総商業漁獲量は約 105 万トンと、2009 年 (114 万トン) に続いて史上 2 番目に多く、太平洋さけます類は引き続き高い資源レベルにあることが確認されました。国別ではロシアが約 50 万トンと全体の約半分を占め、特にカラフトマスは約 39 万トンと 2009 年の最高記録 (約 42 万トン) に迫る漁獲量でした。魚種別の総漁獲量は、カラフトマスが 59 万トン (57%) と最も多く、サケが 28 万トン (27%)、ベニザケが 15 万トン (14%) でした。日本のサケ漁獲量は約 13 万トンで、サケ全体の 47% を占めました。各国からの総放流数は約 45 億尾で前年よりも 13.5% 減少しました。これは東日本大震災の影響により本州太平洋沿岸からの放流数が含まれていないためです。漁獲や放流に関する統計データは、本号 38 頁に掲載されており、NPAFC のホームページ (www.npafc.org) でも最新データを閲覧できます。

NPAFC 科学計画に基づく研究活動

NPAFC 科学計画は、加盟各国が共同研究などを行うためのガイドラインであり、ほぼ 5 年毎に更新されています。現在の科学計画 (2011-2015 年版) のテーマは「気候変動下の海洋生態系におけるさけます類の生産予測」で、研究課題として、1) さけます幼魚の回遊と生残、2) ベーリング海におけるさけます類の生産に与える気候変動の影響、3) 北太平洋におけるさけます類の冬期の生残過程、4) 主要系群の生物学的モニタリング、5) 資源管理のための系群識別手法の開発と応用が含まれています。

CSRS では、これらの研究課題毎にレビューを行いました。科学ドキュメント合計 55 編が各国や作業グループなどより提出され、主要な論文についてプレゼンテーションと質疑応答を行いました。日本は、2011-2012 年に出版された論文等の要旨を



写真 1. 古都 St. Petersburg の Park Inn Pribaltiyskaya で開催された第 20 回 NPAFC 年次会議。



写真 2. 日本から参加した研究者とカナダから来た女性通訳陣。何か嬉しそうに V サインしていた。... 坂の上の雲なのか。

研究課題毎に掲載した文献集を提出しました (Doc 1417). また、海洋でのサクラマスが生残に関する研究成果、海況変化とサケ回帰資源の応答、今年のベーリング海における北光丸調査結果、自然産卵サケの北海道における分布、遺伝的系群識別調査の進捗状況などについて紹介しました。

グループ活動

科学分科会 (SSC) は、附託事項やワークショップ・シンポジウムの開催計画などについて検討しました。2013 年 4 月 25-26 日にホノルルで第 3 回幼魚ワークショップ (NPAFC Third International Workshop on Migration and Survival Mechanisms of Juvenile Salmon and Steelhead in Ocean Ecosystems) が開催されます。また、2015 年 5 月の第 23 回年次会議に合わせて「さけます類の生産予測」に関するシンポジウム (NPAFC International Symposium on Forecasting Pacific Salmon Production) が開催されることになりました。2015 年の年次会議開催国は日本の順番となります。なお、カナダから「国際さけます年 (International Year of the Salmon)」を定めて国際共同研究を推進する意欲的な提案があり、継続して検討することになりました。

資源評価作業グループは、1925 年以後のさけます類の資源状況に関するステータス・レポートを更新しました (Doc 1422)。また、漁獲統計データの電子化に取り組むことになり、そのための予算が F&A で承認されました。検索可能な統計データが NPAFC のホームページ上で 2014 年までに一般にも公開される予定です。

耳石標識作業グループは、耳石標識放流データベース (<http://npafc.taglab.org/>) の更新を行いました。2012 年に各国のふ化場から放流された耳石標識魚数は約 24 億尾と前年よりも 12%増加しました。日本からはサケ稚魚 2 億 6239 万尾、カラフトマス稚魚 2397 万尾が耳石標識を施されて放流されています。

系群識別作業グループでは、各魚種の系群識別のための遺伝的基準群の整備状況を論議しました。特に各魚種ともロシア系基準群の不足がネックとなっていますが、ロシアよりカラフトマスの遺伝標本が提供されることになり、大きな進展となりました。

タグ標識作業グループは、2012 年における沖合標識放流と 2011 年の標識魚再捕記録を収録したドキュメントを共同作成し委員会に提出しました。日本は、サケが遊泳する水域の水温等をモニタリングするため、ベーリング海で水温、水深や方位 (地磁気) を記録できるデータロガーをサケに装着して放流しています。近年、北日本では産卵回遊時の高水温が問題となっていますが、サケの遊

泳行動を解析するために貴重なデータとなります。標識魚の回収についてご協力をお願いいたします。

将来の会合

年次会議は、これまで秋に開催されてきましたが、中間会合と合わせた効率的な運営を図るため、2014 年より 5 月に開催されることになりました。2013 年は移行のための暫定的な年となり、単独で CSRS 会議が 4 月 23-24 日にホノルルで開催され、引き続き第 3 回幼魚ワークショップが開催されます。2014 年の年次会議は米国で開催される予定です。

日本が提出したドキュメント

(これらのドキュメントは www.npafc.org で閲覧やダウンロードできます)

Doc 1383: Results of 2011 Salmon Research by the *Oshoro maru* (2011 年おしよろ丸によるさけます調査の結果)

Doc. 1384: Incidental Catches of Anadromous Fish by Japanese Research Vessels in the North Pacific Ocean in 2011 (2011 年度北太平洋での日本の調査船によるさけます類の混獲)

Doc. 1385: Proposed Cruise Plans of Japanese Research Vessels for Salmon in the North Pacific Ocean in 2012 (2012 年北太平洋における日本のさけます調査船の航海計画)

Doc. 1386 (Rev.1): Cruise Plans of Japanese Research Vessels Involving Incidental Takes of Anadromous Fish in the North Pacific Ocean in 2012 (2012 年北太平洋においてさけます類の混獲を含む日本の調査船計画)

Doc. 1387 (Rev.1): Proposed Otolith Marks for Brood Year 2012 Salmon in Japan (さけます類 2012 年級群に対する日本の耳石標識計画)

Doc. 1401: Japan Salmon Commercial Fisheries Catch Statistics for 2011 (2011 年日本におけるさけます類の商業漁獲統計)

Doc. 1402: Preliminary 2011 Salmon Enhancement Production in Japan (2011 年日本におけるさけます類の増殖 (暫定))

Doc. 1417: Japanese Bibliography in 2011-2012 for NPAFC Science Plan (NPAFC 科学計画に対応した 2011-2012 年日本の文献集)

Doc. 1418: Releases of Otolith Marked Salmon from Japan in Fall of 2011 and Spring of 2012 (2011 年秋と 2012 年春に放流された耳石標識さけます類の放流)

Doc. 1419: The Summer 2012 Japanese Salmon Research Cruise of the R/V *Hokko maru* (2012 年夏期の北光丸によるさけます調査)